

平成14年度第3回愛知県周産期医療協議会  
議 事 要 録

日 時：平成15年3月28日（金） 午後3時から午後5時まで

場 所：名古屋第一赤十字病院 第6会議室

委員

出席者：安藤委員、五十里委員、石川委員、石田（昭）委員（代理）、石田（時）委員、一木委員、  
岡田委員、加納委員、小山委員、柴田委員、鈴木委員、寺澤委員、戸効委員（代理）、  
二村委員、松澤委員、森川委員、山崎委員、

欠席者：浅井委員、奈倉委員、早川委員、森田委員、

事務局：愛知県健康福祉部児童家庭課長、愛知県健康福祉部児童家庭課主幹（母子保健グループ）  
名古屋市健康福祉局健康部健康増進課長（代理）

名古屋第一赤十字病院第二小児科副部長、名古屋第一赤十字病院第二産婦人科副部長、

欠 席：

司会者：名古屋第一赤十字病院第二小児科副部長

議 長：加納会長

1．五十里技監あいさつ

2．加納会長あいさつ

3．議事

（1）平成14年度愛知県周産期医療情報システム機能拡充の報告と今後の課題について

<ウイルス対策ソフトについて>

\* 「ウイルス対策ソフト」を、平成14年7月に各地域周産期母子医療センターに送付しました。

<ウイルスソフトの更新について>

\* 1年毎に更新する必要がありますので、毎年更新を予定しています。

\* 更新が必要になりましたら、事務局までお知らせ下さい。

\* 事務局より延長キーをお知らせします。

<平成16年度システム更新に向けて>

\* 平成16年度に情報システムが更新になります。

\* 現在センター機器の設置場所が、名古屋第一赤十字病院内にありますが、更新後は保守管理を行っているNTTデータに設置してはどうか。

\* 回線は、現在INS64を使用していますが、更新後は高速で定額料金のフレッツADSLの使用を考  
えてはどうか。

\* 機器の老朽化もあり、パソコンの更新をしたいと思います。

\* 平成15年度第1回協議会までに、内容について追加・変更等要望がありました、お知らせ下さい。

（2）平成14年度愛知県周産期医療専門相談事業の報告と今後の課題について

\* 総合・各地域周産期母子医療センターにて持ち回りで実施しました。

\* 平成14年10月5日（土）開催（小牧市民病院）平成14年10月26日（土）開催（豊橋市民病  
院）、平成14年11月16日（土）開催（一宮市立市民病院）については、前回の協議会で報告済  
です。

<平成14年11月30日（土）開催（半田市立半田病院）>

\* 日本福祉大学教授 日本福祉大学心理臨床研究センター長 竹中哲夫先生による、「児童虐待問題理解  
の再検討」の講演会を開催しました。

<平成15年2月1日(土)開催(公立陶生病院)>

- \* 名古屋市立大学 産婦人科学教室講師 種村光代先生による、「周産期領域の超音波検査」の講演会を開催しました。
- \* 医師10名、助産師他10名、合計20名ほどの参加者でした。

<平成15年2月8日(土)開催(岡崎市民病院)>

- \* 名古屋大学医学部 周産母子センター講師 早川昌弘先生による、「新生児医療からみた妊娠中期合併症の管理」の講演会を開催しました。
- \* 参加者は36名でした。
- \* 岡崎市民病院の小児科・産婦人科のスタッフをはじめ、地元医師会からも多数参加がありました。
- \* 安城更生病院からの参加もありました。
- \* 新生児専門医からの妊娠中期母体・胎児への提言と、早産児医療の解説をいただきました。
- \* 講演終了後は活発な質疑応答がなされ、盛況のうちに散会しました。

<平成15年2月8日(土)開催(トヨタ記念病院)>

- \* 信州大学医学部 保健学科助教授 玉井真理子先生による、「てのひらのなかの命～遺伝子診療部の心理士として」の講演会を開催しました。
- \* トヨタ記念病院では産科、新生児室に臨床心理士が入って母親へのサポートを行っており、このシステムを活性化し、退院後の地域への啓蒙ということで開催しました。
- \* 参加者は100名ほどありました。
- \* 地域の保健活動に従事しておられる、保健師、保育師の方の参加が多数ありました。

<平成15年3月8日(土)開催(名古屋第二赤十字病院)>

- \* 東北大学 泌尿・生殖器学 周産期医学教授 岡村州博先生による、「胎児心拍数変動あれこれ」の講演会を開催しました。
- \* 2時間の予定を時間延長しての会になりました。
- \* 地域周産期母子医療センターとしての報告、RSウイルスワクチンの話を当院スタッフで行い、その後岡村先生の講演をしていただきました。
- \* 参加人数は130名ありました。
- \* 大変盛会でした。

<平成15年3月15日(土)開催(名古屋第一赤十字病院)>

- \* 聖マリア病院 育児療養科 吉永陽一郎先生による、「自分にもできる育児支援～育児不安への対応とタッチケア」の講演会を開催しました。
- \* 育児をしているお母さんへの対応等について、お話をさせていただきました。
- \* 育児に関する講演でしたので、保健師、助産師の方を中心に多数の参加がありました。
- \* 参加者は100名程でした。

<来年度の開催について>

- \* 今年度実施できなかった施設は、来年度には是非とも実施をお願いします。
- \* 来年度も各周産期母子医療センターでの開催をお願いします。
- \* 相談事業が年度後半から終わりにかけての日程になりがちですので、早めの開催をよろしく願います。
- \* 地域の看護師、助産師の方にもアピールしてください。
- \* テーマは自由ですので、来年度もよろしく願います。

(3)平成14年度愛知県周産期医療調査・研究事業の中間報告と今後の課題について

<愛知県下のハイリスク新生児(NICU収容児)の退院後の地域での支援体制(保健師活動)の実態調査)継続)>(山崎嘉久)

- \* 2年継続で調査しています。
- \* 連絡表を作成し、平成14年11月から平成15年3月まで調査を行っています。
- \* 医療機関より236例の報告がありました。(調査に同意していただけの方)
- \* 対象者所在地は、名古屋市13区、愛知県35市町村、静岡県、沖縄県、京都府、三重県もありました。
- \* 現在、保健機関より63例の返事があります。

\* 平成15年5月ごろに、保健機関、家族宛に最後のアンケート調査を行った後に、データをまとめ報告書作成する予定です。

\* 平成15年度の研修会に、最終報告を行います。

<新生児脳症における全身性炎症反応症候群の関与について> (早川文雄)

\* 本日早川委員がご欠席ですので、平成15年度第1回協議会で、説明をしていただきます。

\* 資料 3 - 1をご参照ください。

<NICU入院児の母親の子どもへの愛着形成に関する研究> (鈴木千鶴子)

\* 当院産科で分娩された母親を対象に、質問用紙を用いてアンケート調査を行いました。

\* 目的・方法・分析結果は資料をご参照ください。

\* 周産期母子のメンタルヘルスケアに関心が向けられ、マタニティーブルーといわれる患者の抑うつ状態、産後うつ病等母親側の心理状態は子どもへの愛着に大きな影響をあたえられと考えられます。

\* NICU入院児の母親の心理状態と子どもへの愛着との関連、それぞれに関わる要因を探り出産後の母親へのアプローチへの手がかりを得ることを目標としました。

\* 具体的には正常時の出産に係わりを持つ母親について検討しましたが、NICU入院児の母親に結果として抑うつ傾向が見られ、愛着形成も強く、また不安に対しては変わらないという評価が得られました。

\* その他詳細については現在検討中です、詳しくは後日報告いたします。

\* NICU入院児の母親はマタニティーブルーになりやすいようですが、カンガルーケア等により予防する努力が必要である。

\* 産後3日~5日目の人を対象に調査されていますが、退院時にはどう変化(経過)したかについてはどうでしょうか。

\* アンケートは、正常な方には産後は3日~5日で行いました、NICUに入院中の方には、赤ちゃん入院中にアンケートをお願いしました。

\* 今後は、周産期医療にも心理的な処方が大事になることが広がってくるのではないかと考えられます。

\* 今後は母親のカウンセリングを行うのに精神科受診ではなく、周産期独自で出来るシステムが出来ると、臨床心理士の関与もしやすくなるし、病院にとってアプローチしやすいと思う。

\* 保険制度的なバックアップを求める方法を考えて行けると良いと思う。

<来年度のテーマについて>

\* 来年度の調査・研究のテーマについて、ご意見・ご提案がありましたらお願いします。

\* 予算上、来年度のテーマは、1・2題を予定しています。

\* 事務局(案)検討していますが、次回平成15年度第1回協議会までに、事務局までご連絡下さい。

#### (4) 平成14年度愛知県周産期医療研修事業の報告と今後の課題について

\* 平成15年2月15日(土)講演会を開催しました。

\* 京都大学霊長類研究所思考言語分野教授 松沢哲郎先生による、「チンパンジーの出産と子育て」の講演会を開催しました。

\* チンパンジーの系統発生、文化の伝播様式、出産子育てについてお話していただきました。

\* 100名を超える参加者がありました。

\* V I D E Oに記録してありますので、ご覧になりたい方は事務局までご連絡下さい。

\* 来年度の講演会のテーマ、講師についてご提案をお願いします。

#### (5) 報告事項

<周産期医療対策の15年度予算について>

\* 平成15年度の当初予算は、資料 4の下段に掲載してあります。

<周産期医療協議会委員の追加について>

\* 現在愛知県周産期医療協議会システム内に、保健機関が参加していません。

\* 医療システムを発展させるために、NICU退院後の地域での支援、地域周産期医療施設、小児医療保健センターなどを連携する、保健機関の代表者1名を愛知県周産期医療協議会の委員に加えたいと考えています。

\* 保健機関の代表者1名を委員に追加することとする。

<不妊専門相談事業について>

- \* 平成15年7月開始を予定しています。(厚生労働省の方針)
- \* 相談事業、情報提供を主に行います。
- \* 名古屋大学産婦人科に設置予定です。
- \* 平成15年6月21日(土)愛知県芸術文化センターで公開講座の開催を予定しています。
- \* 現在、講師については人選中です。
- \* 不妊治療ではなく、不妊専門相談を行います。

<児童虐待の現状について>

- \* 前回の追加資料です。
- \* 児童虐待相談の受付件数は、平成13年度は572件で、平成14年度も増加する見込みです。
- \* 特に児童虐待防止法が施行されました、平成12年度からは急増しています。
- \* 通告者のその他では、町村役場からの通告が一番多いです。
- \* 虐待児の年齢は、殆どが小学校までの子供です。
- \* 児童虐待防止法には、虐待の分類として4種類あります。
- \* 身体的虐待、ネグレクト、性的虐待、心理的虐待です。
- \* 身体的虐待は305件で全体の53.3%、ネグレクトは188件、32.9%、性的虐待は18件、3.1%、心理的虐待は61件、10.7%という状況です。
- \* 虐待者は、最も多いのが実母で62.9%、次に実父の19.4%でした。
- \* 実父母が80%以上を占めています。
- \* 新聞で報道されますのは、養父の虐待が取り上げられますが、実際は実父母の虐待が多いです。
- \* 児童虐待防止法では、医師、保健師、弁護士、教師は早期発見に努めなければならないと規定されています。
- \* 委員の先生も、早期発見にご協力をお願いします。

<平成15年度愛知県母子保健の重点目標について>

- \* 平成13年度までは3点の重点目標でした。
- \* 平成14年度からは、10代の人工妊娠中絶実施率が急増していることから「10代の人工妊娠中絶の減少」という目標を加えました。
- \* 平成15年度からは、「10代の望まない妊娠の減少」として最重点目標に掲げ、4点の重点目標で行って行きたいと思えます。
- \* 教育委員会を通して、愛知県下の高等学校での産婦人科医による「性教育のあり方について」の講演会を行う要望をしていましたが、5月に県下の校長先生、保健指導の先生を集めて、性教育のあり方についての会を開催していただけることになりました。
- \* 高校生対象では、遅いのではないかと思います。
- \* 半田市内の、中学3年生を対象に講演会を昨年行いましたが、義務教育の年齢に行うのが良いのではないかと思います。

<健康日本21あいち計画 健やか親子について>

- \* 健やか親子各指標のベースライン、現状値、目標値の、平成13年度の数値が出ました。
- \* 健やか親子健康指標のベースラインとその推移で、「周産期死亡率」「乳児死亡率」「20歳未満の不慮の事故死亡率」は減少しています。
- \* 「10代の自殺率」は増加しているので、平成22年までに人口10万人対2.9に減少させるところを目標にします。
- \* 「10代の人工妊娠中絶実施率」は目標値と離れています。
- \* 「妊産婦死亡率」は、平成12年度に上がりましたが、平成13年度からは減少しています。平成22年までに、人口10万人対2.7という目標にしています。

<その他>

- \* コロニー中央病院の、周産期情報システム・応需情報の産科欄の入力は、現状のままにします。
- \* 現在産婦人科の常勤医師がいない、分娩室の改修も必要です。
- \* 条件を満たした時点で、応需情報への入力を行うことにします。

(6) その他

< 専門相談報告の統計業務について >

- \* 専門相談報告の個々の入力項目が多く、入力業務が大変である。
- \* 少し負担が軽くなるような、統計の取り方を検討してほしい。

< 次回医療協議会開催について >

- \* 平成15年度第1回愛知県周産期医療協議会を、平成15年6月6日(金)「名古屋第一赤十字病院 第六会議室」にて開催します。